

## グループワーク実施内容

### テーマ：「これからの図書館に必要とされるモノ（こと）」

内 容： Zoomブレイクアウトルームにグループごとに分かれ、70分間のグループワークを行った。出されたアイデアについて、取り入れたいと思ったものを各自、記入してもらった。

- 図書館と利用者の距離を埋める取り組み。（イベント、歓談スペースの確保）
- 図書館は利用者が気楽に使える場所にするために、フレンドリーな環境を作って行きたい。
- 図書館職員と学生の情報共有の機会が少ないので、ざっくばらんな交流の場を提供したい。
- 海外の企業フロアのように、学生のディスカッションが自然に生まれるような場をつくりたい。（そこで図書館の資料を生かせるような、教授室などではできないことができる場として）
- 癒しの提供。（カフェ、飲食店、猫、植物、etc...）

- コロナウイルス感染症拡大により協働学習の場が不足しているため、図書館主体となってオンラインでの協働学習の場を提供できるような環境を整備、案内、指導を行う。
- ラーニングコモنزの活用。（感染対策の課題）
- 他館でラーニングコモنزがいっぱいある話や、チャットレファレンスのお話が聞けて羨ましいとか、面白そうとか思いました。

- 書架の一部の運営を学生に任せる。（選書、配架）
- 学生が主体となった書架のプロデュース。（選書から配架まで）
- 学生おすすめの本に学生が記載した書評等のPOPを付けて、書架に配架する。

- 電子化によって本を手にとって利用する機会が減ってきているが、実際に本を読む楽しさを伝えたい。
- 自分の読んだことのある本を記録できるようにする。
- 自分が読んだ本がネット上のマイページなどで、読んだ本が見える化されると成果がわかりやすい。

- 来館者を増やすためにしおりの配布やブックカバーのワークショップを行う。
- ブックカバーやしおり作りができるワークスペースを設けて貸出時プレゼント。
- 感染症対策のためブックカバーのデザイン募集。

- 「遊び」を取り入れたサービス。館内一角にガチャ設置。
- 一定数貸出した方にガチャガチャ（花の種、おすすめの本の紹介）を引いてもらう。

- 脱出ゲーム。
- 利用者を巻き込んだイベントとして、図書館主導で謎解きゲームをするのはどうか。書架にある本がヒントになっている（利用者に本を手にとってもらえる）。図書館にこんな本がある、という気づきがあると面白い。
- コロナ感染が落ち着いたら、図書館を会場にし、イベント(地域交流型や小中学生向けの職場体験)をすること。
- 他大学と連携した展示企画。楽しい参加型のイベント。

- 学生に認知されていない図書館専門用語をわかりやすく説明する。（HPなどで
- 「レポジトリ」や「レファレンス」など、図書館の勉強をした人でないと通用しない用語が多く、やさしい言葉で置き換えて表示するのはどうか。

- チャットレファレンス。
- オンライン上で図書館内を歩いて本を探ることができる。
- **Google**ストリートビューで図書館内を案内、書架を見せる。
- 館内の様子を動画で紹介したり、**VR**で体験できたりすると楽しい。
- オンラインでの共同学習への支援。

- 図書館の活動を広報することに注力することが大事との意見がありました。**SNS**や**YouTube**の活用など。
- 図書修理セットを置いて自由に私物の本などを修理してもらう。
- 消毒液を人目につきやすいデザイン（かわいく、カモノハシなど）にして利用を促す。
- コロナ禍ならではの取り組みで、来館した方も楽しめるアイデア。

- **HP**で公開する展示リストを、書名だけではなく表紙を載せてオンライン展示のようにする。
- コロナ禍で図書館利用が少なくなっているいま、HPなどで芥川賞などの作品を紹介する際に、目で実際表紙をみて興味を引く。（ジャケットで目を惹く）